九州大学学術情報リポジトリ
Kyushu University Institutional Repository

# [004]九州大学医学図書館ニュース

https://hdl.handle.net/2324/1955695

出版情報：医学図書館ニュース. 4, pp.1-, 1982-06. Medical Library, Kyushu University
バージョン：
権利関係：

# 医学図書館ニュース

## 九州大学医学分館

No. 4　　1982年6月

目　　次

1. 1年を振り返って ・・・・・・・・・・・・・ 2
2. 研究補助労働者としての私 ・・・・・・・・ 4
3. 雑　感 ・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 5
4. 医学図書館で働くことになって ・・・・・ 6
5. 新着図書案内 ・・・・・・・・・・・・・・ 7
6. 新規備え付けビデオ・テープ案内 ・・・ 11
7. 文献複写料金（学内私費）の改定について 12

医学分館長　　山元寅男

去る2月4日、新医学分館を開館してから4ケ月が過ぎました。　その間、予想を上回る多勢の学生、教職員の皆様に利用して頂き、嬉しく思っている次第であります。　使い易い、機能的で快適な図書館をとの願いが実現しつつある証しと思います。

これまで、箱崎地区の中央図書館や教養部図書館に比べて、旧医学分館は設備、環境の点で著しく劣っておりましたが、新館の開館に伴い、各地区の図書館は同じ内部環境の下で業務を行っております。

医学分館におきましては、学生諸君が十分満足できる程の学習参考図書の整備が行なわれていませんが、これから漸次充実していく予定であります。　語学練習テープやビデオテープの利用もだんだん多くなって参りました。　今後の活用を望んでおります。

より良い図書館を目指して、館員一同努力致しておりますが、不十分な点、改善すべき点も多いことと思います。建設的な御意見をお寄せください。

# 1年を振り返って

受入掛　瓜生照久

はじめに

季節はめぐり、社会人としての生活も、はや2年目をむかえた。

ここで、簡単に1年を振り返ってみたい。

昭和56年4月

3月に高校を卒業して、初めて社会に出た記念すべき月である。

参考調査掛勤務を命ぜられ、緊張の日々であった。

5月

諫早で行われた「人事院九州事務局主催昭和56年度(第2回)新採用職員研修」に参加。初出張で不安もあったが、国家公務員としての自覚・責任が再確認できた大変有意義な研修であった。

7月

中旬から、学生アルバイトを使って、立案された計画にもとづき、図書資料移転のための準備作業を担当した。

なにしろ初経験であったので、種々のアクシデントもあったが、他の館員の方々の協力と、学生が良く働いてくれたこともあり、8月下旬に予定どおり終了することができた。

12月

本格的な移転準備に取りかかった。学生を使って、連日、夜9時まで作業を続行し、予定どおり中旬から第1回目の移転を開始することができた。

図書が確実に新書庫に収納できるかどうか不安であったが、トラブルもなく無事、予定の書架に配架でき、安堵した。

昭和57年1月

5日から、第2回目の移転作業が開始された。途中、部分開館のための書庫整理を行ったが、2月3日で全作業が終了した。

終了後、過労でダウンしたものの、新図書館の建設・移転を経験したことは、大変貴重なことで、今後の勤務において有益であったと感じている今日このごろである。

4月

館内異動で受入掛勤務を命ぜられた。図書整理業務の第1歩からのスタートであるが、1日も早く、専門的な司書業務をマスターしたいと願っている。

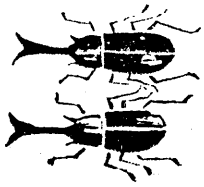
おわりに

思いつくまま、膚で感じたことを、月をおって振り返ってみた。

この1年間は、なにもわからず、無我夢中で終ってしまったというのが実感である。

一最後に利用者の皆さんへ一言一

図書は、大切な国の財産です。勝手に私物化したり、処分したりしないよう御願いします。



# 研究補助労働者としての私

閲覧掛　小川　稔

私が、九州大学医学図書館に勤務するようになって、すでに2か月が過ぎようとしている。私が学生であった頃は、やはり、大半の学生がそうであるように、のんびりと学生生活を送っていた。したがって、最初の1か月は、環境が異なったことも影響し、仕事に慣れるのに精一杯であったが、仕事が板についてきた最近では、幾等か余裕も出てきた。それとともに、私は自分なりに図書館の役割を考察できるようになってきた。

私の勤務場所は閲覧掛である。閲覧掛は、図書館利用者と最も多く接する掛である。いわば、図書館の受付と言えよう。したがって、図書館内の業務に精通していなければならない。ところが、私はまだ館内の業務に関して甚だ勉強不足であり、毎日学ばねばならぬことがたくさんある。また、利用者に対して、言葉使いや態度に注意しなければならない。だから、私にとって、毎日が勉強と言えるだろう。

私が本図書館に勤務するようになって、痛感したことがある。図書館の本来の機能は、言うまでもなく、利用者のために情報提供を行うことにある。どうして研究者が図書館を利用するのかということを考慮すると、館員の位置は自と明確になってくる。つまり、館員は研究補助労働者である。研究補助労働者というからには、研究者との間に著しい能力差があってはならない。換言すれば、研究補助労働者は研究者の足を引っ張ってはならない。だから、館員は常に能力の向上に努める必要がある。

技術革新の波は、図書館にも押し寄せてきている。図書館の電算化のことである。本図書館も現在より電算化が進むことになるが、私の担当する閲覧掛の職務内容も多少の変動があるだろう。だが、そのときでも、私に要求される能力は、現在より減少するわけではない。反対に、当然のことではあるが、館員には現在以上の能力が要求されることになる。それは確実なことである。コンピュータを操作する人間がしっかりしていないと、その機能が十二分に発揮できないからである。したがって、将来、館員の研究補助労働者としての色彩は、ますます強まっていくことであろう。

# 雑　感

目録掛　西島　徹

私が図書館と接触を持つ様になったのは、箱崎地区にある附属図書館閲覧掛に就職してからである。昭和49年夏のことである。24才の半ばまでのんべんだらりと暮していた。見るに見かねた父親が世話を焼いたわけである。就職とか結婚とかは偶然が支配する要素が多いようである。私もたまたま図書館に就職してしまった。以来7年と数か月、図書館にお世話になっている次第である。その間、閲覧掛、受入掛、そして現在の目録掛と3つの業務を経験してきた。閲覧掛では利用者との応対の仕方に気を使い、受入掛では会計規則に神経を費し、目録掛ではただただ気を静め資料との関係を深く持つように気を配っている。

図書館に勤めてよく耳にすることがある。図書館で働いていると本が読めていいですねと。傍から見るとそう見えるらしいが、なかなかそうでもない。仕事が忙しくて読めないのではない。また、本に埋もれて読む気を起こさせないのでもない。物事についての関心の度合がそうさせるのである。本は嫌いではないが、たまらなく好きだという訳でもない。しかし、本が身近になければやはり淋しく思う。身近にあってもそれ程根をつめて読むことはないが、読んで感動したことはある。図書館に就職する以前の話である。図書館から借り受けた本でもなければ、書店から買い求めた本でもない。友人がおもしろいから読めと言った本である。自分で見つけて感動したためしがない。何とも頼りない鑑識眼である。書物を読んで友を選んだ訳ではない。良き友人と出会って、書物が一緒に付いて来たのである。友人の中に、睡眠薬がわりに本を読む者がいる。羨ましい限りである。本を読まないと眠れないのである。私は眠気を誘うために本を読む。

怠惰な性分なのか、読了しないうちに次の本を買う癖がある。新しい本を途中まで読んで、また次の本を買う。友人は言う、一冊の本を全部きれいに読んでしまって、次に読みたい本を買えと。万事につけて詰めの甘さがある。最後の締括りに根気を出さなければ、物事は成就しない。当り前のことである。

この程度のことが、私と本との係りである。ここにいう本とは一般的な読み物、小説とか評論、エッセイの類である。学術書や専門書はどうもいけない。こんな些細な経験が図書館の仕事に効果をもたらしているとは思わないが、今日まで恙無く勤められているのは、この様なことでも少なからず役に立っているのであろう。

# 医学図書館で働くことになって

参考調査掛　深川光郎

本年の四月、農学部図書掛から新築されたばかりの医学図書館へ配置換となった。　まず素晴しい建物と利用者のために充分にいき届いた施設・設備を見て、この図書館の利用者への姿勢をかいま見たような気がした。これが私の第一印象であった。　農学とは自然科学的な関連分野があるとはいえ医学図書館での図書職員は対研究者との関係に留まらず、その背後に1日も早い健康の回復を願う多くの患者とさえも関わっている。　このことは図書職員の本来の使命である〝研究者の必要とする資料をいかに早く提供するか〟という原点での仕事をより一層追求しなければならない。しかし、緊張しながらも、使命を果たすことができれば満足感を得ることができるはずである。　現在の私の主な仕事は学外からの文献複写の受付、視聴覚資料の管理・運用及び文献の調査である。　当館への相互利用の申込みは全国からあり特に最近は、当館が外国雑誌の分担収集の拠点館に指定されていること、あるいは機械での情報検索サービスの普及で相互利用の申込み件数もさらに増加の一途をたどっている。　申込む側、受付ける側ともお互いの責任を果たして、円滑な相互利用をすることが望ましい。しかしながら中には依頼する文献の書誌的事項の欠如のため調査に時間を要したり、謝絶（依頼された文献複写に応えられず断ること）も少くない、従がって依頼する場合、正確に記入することはおのずと、素早い処理を保障することになるのである。　今後学外への文献複写サービスも郵送からテレックス・フアクシミリ等への機械化が必至となろうが、図書館で所蔵する一次資料は結局人間が捜さざるを得ない。　つまりこの段階で遅くなっては、他の面でいくら機械化が進んだとしてもその意味は半減してしまうのである。

次に医学図書館での大きな特徴である視聴覚資料（ビデオテープ、LLカセット等）の利用が最近、増えつつあるがより一層の充実を図るとともにその多くの利用を期待している。

以上、医学図書館へ来て2ケ月、思いつくまま述べてみたが、自分自身としてはこの恵まれた職場環境を生かすために、一日も早く医学図書館員としての自立を目指し努力せねばと思う昨今である。

# 新 着 図 書 案 内

日本人　ーその思想と行動ー　九州大学公開講座委員会　編　福岡　九州大学出版会　1982　282p　(九州大学公開講座　3)　GN

ホモサピエンス・アメリカーナ　高濱靖英　著　福岡　九州大学出版会　1982　234p　H

国別経済技術協会事業実績（昭和29年ー昭和53年度）および国別主要指標　第一分冊　［国際協力事業団　編］　［国際協力事業団］［1980］　1冊　内容：アジア地域　HD

学恩　ーSegi's capの再発見ー　瀬木三雄　編　名古屋　瀬木学園　1980　130p　QS4

解剖手稿　1ー3　復刻版　レオナルド・ダ・ビンチ　著　ケネス・D・キール　カルロ・ペトレッテイ　共翻刻・注解　裾分一弘　等訳　岩波　1982　3冊
原書名：Leonardo da Vinci, Carpus of the anatomical studies, 1980.　QS4

平沢　興博士論文集　1ー7　平沢　興　著　平沢　興博士論文集編集委員会　編　日本教材文化研究財団　1981　7冊　QS9

村上長雄教授追悼業績集　［三重大学医学部生理学教室第一講座　三重大学医学部生理学教室同窓会　共編］　津　三重大学医学部生理学教室第一講座　三重大学医学部生理学教室同窓会　1981　180p　QT9

人の成長には何が必要か　医学研究振興財団　編　講談社　1982　296p　QT104

食の科学　ー食物と人間生活ー　九州大学公開講座委員会　編　福岡　九州大学出版会　1980　252p　(九州大学公開講座　2)　QU50

医科免疫学　改訂第2版　菊地浩吉　等著　南江堂　1981　507p　QW504

新病理学総論　第13版　武田勝男　編　南山堂　1981　589p　QZ4

遺伝学と医学　3　医学研究振興財団　編　共立出版　1982　255p　QZ50

病気の遺伝学　柳瀬敏幸　著　金原　1981　685p　QZ50

医療を裁く　ー地に堕ちた日本の医療ー　藤林貞治　著　有朋社　1982　326p　W100

医学シンポジウン　第4輯 1ー3　藤實廣由　編　診断と治療社　1953
3冊
内容：起り易き診療上の過誤と其注意　WB5

図説臨床内科講座　19　熊原雄一　清水直容　中村治雄　共編
メジカルビュー社　1982　295p
内容：運動器　WB5

小坂淳夫教授退官記念論文集　岡山大学医学部第一内科内小坂淳夫先生
退官記念会　編　岡山大学医学部第一内科内小坂淳夫先生退官記念会
1981　310p　WB9

臨床の進歩　5ー6　青柳安誠　編　大阪　永井書店　1951ー52　2冊
WB100

関節鏡視と関節造影　渡辺正毅　栗若良臣　編著　日本メルク萬有社
1981　192p　WE300

臨床呼吸生理学　1ー2　本田良行　編　真興交易　1979　2冊　WF102

日本の石綿肺研究の動向　1980　兵庫医科大学内科学第三講座　編
兵庫医科大学内科学第三講座　1981　383p　WF654

臨床神経耳科学入門　坂田英治　著　医歯薬出版　1981　204p　WL100

シエーマでみる自律神経　ー最新の知識ー　入来正躬　編　春日部
藤田企画出版　1981　325p　WL600

現代精神医学大系　別巻　懸田克躬　編集代表　中山書店　1982　349p
内容：総索引・総目次　主要人名解説　WM5

CT像のチエックポイント Q & A　海老原進一郎　等編　日本メルク萬有
社　1981　436p　WN17

永井良治教授定年退職記念教室業績集　永井良治教授退職記念事業会
名古屋市立大学医学部第二外科学教室　共編　名古屋市立大学医学部
第二外科学教室　1981　245p　W09

人フイブリン膜の臨床応用　西　重敬　著　大阪　医学書房　1981
97p　W0704

乳癌の臨床　邑山洋一　著　邑山洋一　[刊年不明]　82p　WP870

大阪歯科大学史　1ー2　大阪歯科大学史編集委員会　編　大阪
大阪歯科大学　1981　2冊　WU11

カラーアトラス歯冠修復　J. Ralph Grundy 著　小野瀬英雄　黒田　隆 共訳　医歯薬出版　1981　2冊
原書名：A colour atlas of conservative dentistry, 1980.　WU100

歯科用アマルガム　Knud Dreyer Jørgensen 著　奥田礼一　等訳　書林 1980　150p
原書名：Amalgame in der Zahnheikunde, 2. ed., 1976.　WU180

眼科用語とその解説　増補改訂第2版　加藤　謙　著　金原　1981 200p　WW15

眼科の本の本　清水弘一　編著　清水弘一　1982　174p　WW100

関東逓信病院紀要　5　関東逓信病院紀要編集委員会　編　1982　944p (病院開設30周年記念号)　WX2

青友史　青友会　編　横浜　青友会事務局　1981　259p　WZ23

## 辞　書　類

医科学大事典　1－5　武見太郎　等編　講談社　1982　5冊　R201

國民医療年鑑　－日本医師会学術活動の評価と展望－　昭和56年版 日本医師会　編　春秋社　1981　609p　R201

岩波 西洋人名辞典　増補版　岩波書店編集部　編　岩波　1981 1962, 282p　R300

医学洋書総合目録　1980　年間累積版　日本医学図書館協会　編 丸善(発売)　1982　555p　R710

Malherbe, Hubert H. & Strickland-Cholmley, Margaret
Viral cytopathology. Florida, CRC Press, 1980
78 p. QW 160

Crowe, Ruth, Ozer, Harvey & Rifkin, Daniel
Experiments with normal and transformed cells;
a laboratory manual for working with cells in culture.
New York, Cold Spring Habor Laboratory, 1978.
175 p. QS 504

Patty, Frank Arthur Industrial hygiene and toxicology.
3. ed. Vol. 2B. Toxicology. Clayton, George D.
& Clayton Florence E. ed.
New York, Wiley, 1981. 2879-3816 p. WA 465

Foster, James Henry & Berman, Martin M.
Solid liver tumors. Philadelphia, Saunders, 1977.
342 p. (Major problems in clinical surgery Vol. 22)
WI 735

Davis, Loyal Edward ed.
Davis - Christopher Textbook of surgery; the biological
basis of modern surgical practice. 12 ed. Vol. 1-2.
Philadelphia, Saunders, 1981. 2 v.(2481 p.) WO 100

Andrews, George Clinton
Diseases of the skin; clinical dermatology. 7. ed.
Philadelphia, Saunders, 1982. 1108 p. WR 140

REFERENCE BOOKS

The Oxford dictionary of quotations. 3. ed.
Oxford, Oxford Univ., 1979. 907 p. R 103

Illustrated medical dictionary. 26. ed.
Philadelphia, Saunders, 1981. 1485 p. R 203

The World of Learning, 1981-1982.
Vol. 1-2. 32. ed.
London, Europa Pub.: [Tokyo, Maruzen] 1981.
2 v.(2136 p.) R 450

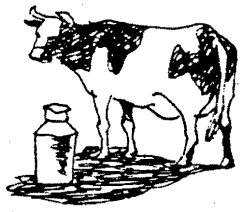
Books in print. 1981-1982. Vol. 1-4.
New York & London, Bowker, 1981. 4 v. R 600

## 新規備え付けビデオ・テープ案内

下記のビデオ・テープは教室の御厚意により提供されたものです。
一般のビデオ・コーナーに配架いたしておりますので、御利用ください。

記

| | | |
|---|---|---|
| 1. | Mitral Stenosis | 循環器内科 |
| 2. | Endocardial Cushion Defects | 循環器内科 |
| 3. | Mesh Skin Graft | 皮膚科 |



文献複写料金（学内私費）の改定について　（通知）

標記の件につき、九州事務機販売（株）（当館複写センター業者）から下記のとおり改定する旨連絡がありましたので、お知らせします。

記

| 規格 | 業者サービス（図書持込み） | | セルフサービス |
|---|---|---|---|
| | 旧料金 | 新料金 | 新設料金 |
| B4 | 40円 | 30円 | 20円 |
| A3 | 50円 | 40円 | |

なお、新料金の適用は、昭和57年5月1日からです。

発行所　九州大学附属図書館医学分館
住所　福岡市東区馬出3丁目1－1（〒812）
電話　代表（641）1151　内線3194
編集人　朝倉　一